

	福島県		県中地域				須賀川・岩瀬地区				石川地区				田村地区			
	第47週	第46週	第47週		第46週		第47週		第46週		第47週		第46週		第47週		第46週	
	感染症動向	感染症動向	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報
インフルエンザ	16	5	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	18	17	2	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	129	127	4	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	0	2	0
感染性胃腸炎	169	179	44	7	69	6	44	2	68	1	0	4	0	4	0	1	1	1
水痘	37	29	7	1	0	3	7	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
手足口病	53	73	7	2	16	3	3	0	4	0	0	0	0	0	4	2	12	3
伝染性紅斑	42	36	4	7	3	9	3	0	2	0	1	7	1	9	0	0	0	0
突発性発疹	25	26	6	0	6	0	3	0	5	0	0	0	0	0	3	0	1	0
ヘルパンギーナ	11	19	1	1	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	5	2
流行性耳下腺炎	3	7	0	0	2	6	0	0	1	1	0	0	1	5	0	0	0	0
RSウイルス感染症	54	79	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急性出血性結膜炎	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0		0	0		0	
流行性角結膜炎	15	11	2	2	0	0	2	1	0	0		1		0		0		0

※平成30年1月1日より百日咳が全数把握疾患となりました。また、風しんの届出が「診断後7日以内」から「診断後直ちに」と変更になりました。
 ※平成30年5月1日より急性弛緩性麻痺が全数把握疾患となりました。

【感染症発生動向調査】 ※定点医療機関からの情報をもとに集計 【学校欠席者情報】 ※保育園、幼稚園、小中学校、高等学校の欠席者情報です。

県中地域の状況

<p>流行中</p> <p>〈水痘〉 水痘帯状疱疹ウイルスによる感染症で一般的に「みずぼうそう」と呼ばれています。感染経路は空気感染、飛沫感染、接触感染です。潜伏期間は2週間程度。典型的な症例では発疹は紅斑から始まり、水疱、膿疱を経て痂皮化して治癒するとされています。</p>	<p>※飛沫感染 患者の咳やくしゃみのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことで感染します。マスクの着用や咳エチケットを実施してください。</p>
<p>小流行中</p> <p>〈A群溶血性レンサ球菌咽頭炎〉 A群レンサ球菌による上気道の感染症です。感染経路は飛沫感染、接触感染です。</p> <p>〈感染性胃腸炎〉 食品や飲料水をとおり経口的に細菌、ウイルスなどの病原体が腸に感染してさまざまな消化器症状を引き起こす病気です。</p> <p>〈手足口病〉 主として乳幼児に見られる手、足、口腔内等に小水疱が生じる伝染性のウイルス性感染症です。感染経路は飛沫感染、接触感染です。</p>	<p>※接触感染 細菌が付着した手で口や鼻に触れることで感染します。手洗い、うがい、頻繁に人が触れる場所(ドアノブ等)についての環境整備など基本的な対策を徹底することが必要です。</p>

インフルエンザに注意しましょう！！



画像引用：厚生労働省HP
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou/keihatu.html>

- ① **流行前のワクチン接種**
 インフルエンザワクチンは、感染後に発症する可能性を低減させる効果と、発症した場合の重症化防止に有効と報告されています。
- ② **飛沫感染対策としての咳エチケット**
 インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染です。咳やくしゃみを他の人に向けて発しない、また、咳やくしゃみなどが出るときはできるだけマスクをするなど、普段から咳エチケットを心がけてください。
- ③ **外出後の手洗い等**
 流水・石鹸による手洗いは、手指など体についたインフルエンザウイルスを物理的に除去するために有効な方法であり、インフルエンザに限らず接触や飛沫感染などを感染経路とする感染症の対策の基本です。また、インフルエンザウイルスはアルコールによる消毒も有効であるため、アルコール製剤による手指衛生も効果があります。
- ④ **適度な湿度の保持**
 乾燥しやすい室内では、加湿器などを使って適切な湿度（50～60%）を保つことが有効です。